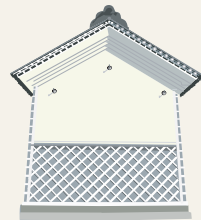
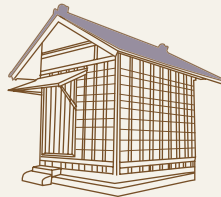


おさんぽふいーどわーく 大曲・高柳編

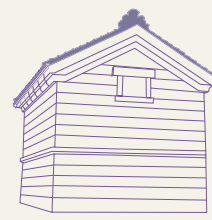
蔵について



土蔵(どぞう)



板倉(いたぐら)



石蔵(いしぐら)

✳ 道路沿いに蔵の見えるところ

- 1 国重要文化財 洞口家住宅
- 2 天満天神社
- 3 八幡神社
- 4 丈六地藏尊(オジョウロクサマ)
- 5 多賀神社

大曲地区では、一般的に「蔵」といって連想される「土蔵」(どぞう)の他にも、「板倉」(いたぐら)や、「石蔵」(いしぐら)という、材質によって呼び方の異なる蔵が現存しています。これらの蔵は、何のために使うか(米や味噌を貯蔵するため、本などを保管するため、稲の種籾を保管するためなど)によって、作りわけがされています。

土蔵(どぞう)…壁を土で作った蔵。下部をなまこ壁といわれる塗り方で塗ったり、石材を組み合わせて建てたものもある。また、屋根に近い上部を家紋などの意匠で装飾したりすることもある。

用途としては、湿度や温度が一定に保たれるため、味噌や米の保管、本などの保管、また住居スペースとしても使用した(座敷蔵(ざしきぐら))。

板倉(いたぐら)…木の板をつなぎあわせて作った倉。湿度を一定に保つ機能に優れる。稲の種籾などを保管するために使われた。食害防止のためにねずみ返しをついた板倉もある。柱をたくさん使った繁柱(しげばしら)と言われる形式の倉がよく見られる。

石蔵(いしぐら)…石のブロックを積み上げて作られた蔵。地元の石でつくったものや、仙台・秋保から石を取り寄せてつくったものなど、様々なものがある。

1 洞口家住宅（国重要文化財・昭和46年指定）

大曲地区の旧家で、^{けたゆき}桁行^{けん}12間(25m)、^{はりま}梁間6間(11m)で寄棟造りの茅葺屋根の主屋と、同じく茅葺の表門が目を引き国の重要文化財です。他にも主屋裏の座敷蔵と味噌蔵、道路南の米蔵の3棟の蔵や、屋敷をめぐる濠と北側のイグネが一体となって美しい風景を形づくっています。また、市登録文化財の木製消火ポンプも保存されています。



(見学を希望される場合はHPで確認してください)

3 八幡神社

^{おうじん}応神天皇を祀る神社で、明治42年(1909)多賀神社に合祀されましたが、社は木々に囲まれて現存しています。境内には数々の石碑があり、今でも手入れが行き届いていて心地よい場所になっています。



5 多賀神社

閑上町が東多賀村だった頃の地名の由来となった神社です。神社のある地域の北側には^{こうたん}皇壇ヶ原という地名と、^{やまとたけるのみこと}日本武尊が祭祀を行った場所という伝説も残っています。



また、平安時代に書かれた延喜式という古い記録にも書かれている、由緒ある神社とも伝わっています。



境内西奥には古碑や増田街道を新設するのに尽力した^{ますだ しげゆき}増田繁幸翁の^{しょうとくひ}頌徳碑、拝殿には社名にちなんだタガも奉納されています。

2 天満天神社

^{あまてらすおのみかみ}天照大神を祀る神社で、小野という武士の守護神と伝わります。屋敷が個人所有になった際に廃されました。村人が再建したと伝わり、村の社のたたずまいを残しています。



4 丈六地藏尊（オジョウロクサマ）

地元では「オジョウロクサマ」と呼ばれるお地藏様をまつたお堂です。別名せり咳の神様と呼ばれ、お地藏様をわらで縛って祈願する風習が伝えられてきました。

お堂の周りには小さな古碑も集められており、この地も信仰の対象として大事にされてきたことがわかります。



道路沿いにこんな蔵(板倉)が見られます。